

—— ビットコインはバブルだと言われている。

■ビットコインは将来、通貨として使われるかもしれないという期待も手伝って買われている。ビットコインの価格は年初から4倍になったが、実は仮想通貨全体の時価総額に占めるビットコインの比率は低下している。以前は90%を超えていたが、現在は50%を下回る水準だ(図)。

なぜシェアが低下したのか。

■アルトコイン(ビットコイン以外の仮想通貨)が値上がりしたためだ。中でも上昇が著しいのが「イーサリアム」で、背景にはICO(イニシャル・コイン・オフERING、新規仮想通貨の発行)の拡大がある。

ICOでは「スマートコントラクト」という電子契約が可能なイーサリアムが使われることが多い。投資家は手持ちのビットコインをイーサリアムに替えて、ICOで企業が発行する「トークン」と呼ばれる新しい仮想通貨に投資している。このため、ICOが急

ICOブームと価格急騰 産業生む力になっていない

バブルはビットコインに限らない。仮想通貨全体が投機の対象になっている。

拡大し始めた今年5月以降、イーサリアムも値上がりし始め、6月半ばまでの1カ月半で5倍に急騰した。

イーサリアムが値上がりすると、イーサリアム建てで購入したトークンも値上がりする。トークンが値上がりするということは、ICOが必ず成功するということであり、ICOを実施する企業がより増えることになる。こうしてイーサリアムをはじめとするアルトコインの値上がりでICOの拡大が同時に進む

ている。技術的に未熟だったり、ガバナンスの状態がよくわからないコインまで値上がりしている状況に危うさを感じている。例えば時価総額9位(10月6日時点)のコイン「OTA(アイオータ)」は技術面で注目されているコインだが、脆弱性を指摘する論文が発表されたことがある。技術的に評価は定まっていなかったコインまで買われてしまっている。

—— ビットコインの今後は。

■ビットコインもイーサリアムも、もともとは実験的な存在だ。しかし、期待先行で価格が上昇したために、価格維持を重視する人たちを無視できなくなってしまった。システムに不具合が生じても手直ししにくくなっている。バブル的な相場はいったんリセットした方がいいが、それは



インタビュー
いわした
なおゆき
岩下 直行
京都大学公共政策大学院教授、
元日銀フィンテックセンター長

ようになった。

循環物色に

—— アルトコインの状況をどう見るか。

■「第2、第3のビットコインを探せ」とばかりに資金が流入し、低位株の循環物色と同じようなことが仮想通貨市場で起

難しいだろう。今のビットコインは、決済の革命を起こすという開発者「サトシ・ナカモト」の理念からかけ離れてきているように感じている。

—— ICOは規制が検討される一方で、資金調達の方法として普及するとの見方もある。

■ICOを通じて流入した資金は、新しい産業を生み出す力になっていない。調達した資金の用途の4割は「インフラ」に分類されているが、ICOの取引所など仮想通貨のためのインフラであって、それらまだ形になっていない。また資金調達した企業の中には、説明責任を果たさずに姿をくらますものもあると聞く。ICOのブームがこのまま続くとは思えない。

(聞き手＝編集部)

(%) 時価総額ベースでのビットコインのシェアは低下

